

## 2 中高連携英語力向上 第2年次の歩み

### (1) 大垣市立北中学校における実践

#### <授業実践>

##### ①授業実践に向けての構え

- 英語を聞いたり話したりする時間を多く確保する。帯活動として Talking Time を定着させる。
- 少しでも多くの発話ができるように、読み取りや音読練習で、フレーズごとに意味を取ったり発音したりする練習（フレーズリーディング）を積み重ねる。
- 誰もが生き生きと表現できるためのペア、4人の小集団、グループワークなどの形態を工夫し、一人一人が確実にコミュニケーションができる場を設定する。

##### ②第1回授業交流研究会

【日時】 平成16年6月16日（水）

#### 【公開授業】

- ・単元名 LET'S TALK 3 ( Lesson 3 Hiroshima and Nagasaki, New Crown 3 )
- ・授業学校・学級 大垣市立北中学校 3年2組
- ・主な提案内容

- 授業の最初に Question Book を使ったインタビュー活動を行い、Talking Time を確保してきた。
- 既習表現の定着を図るために Super Telephone と Story Fight のゲームを行い、グループワークを通して全員が発言できるチャンス設けた。

#### 【授業研究会】

- 現在完了の文を ALT から聞き、それをチーム内の次の生徒に伝言していく Super Telephone では、発話するの文の正確さが追求されていた。
- 文を自由に付け加えていく Story Flight では、次々に内容が進み、楽しんで取り組んでいた。また、発言内容を黒板に書き留めたことで、ストーリーの振り返りを容易にすることができた。
- ▲ Story Flight では、話題の進め方や使用する接続詞、目標となる表現をあらかじめ提示しておくこと、文と文のつながりをより意識して表現する活動となる。
- ▲発言者を限定しないで、できるだけ多くの生徒が output できるように工夫していくとよい。

##### ③第2回授業交流研究会

【日時】 平成16年11月1日（月）

#### 【公開授業】

- ・単元名 Lesson 5 The United Kingdom (New Crown 2)
- ・授業学校・学級 大垣市立北中学校 2年3組
- ・主な提案内容

- Talking Time において、既習内容 (there 構文) の定着を図るために、自由英作文や応答練習などの多様な活動を工夫した。
- 教科書本文の内容の読み取りとして、レッスンを通して次のようなステップを踏み、継続的に指導してきた。①ピクチャーカードを用いた口頭導入、②単語、語句の意味の確認、③フレーズのまとまりをとらえながらの聞き取り、④音読練習、⑤ペアによる内容の読解、⑥内容に関するQ&A
- 英語による活動の指示やリアクションを多用することで、英語を話す環境を多く生み出した。

#### 【授業研究会】

- 語句の入れ替えをしながら発音練習をすることで、生徒が英語に多く触れることができた。ま



た、個々に指名して発言する場面を作り、生徒に適度な負荷を与えることで、着実に表現する力を付けることができた。

○フレーズリーディングによる内容把握の方法が取り入れられており、把握したことが音読や英作文による表現活動に結びついていた。

○How about you? など、学習者に応じた言葉かけをしながら、Oral introduction がなされていた。また、理解を助けるヒント資料やピクチャーカードの準備がきめ細かになされ、効果的に提示されていた。

▲全体練習の前に各自で音読する時間を取ることで、生徒に課題意識をもたせることができ音読に対する学習意欲が高まる。語句の導入時における発音練習では、単に文や入れ替え文をリピートするだけでなく、2～3文付け加えて言ってみるなど、練習方法を工夫するとよい。

▲各セクションでの表現活動を単元の終末の活動にどうつなげていくかが課題である。

### <グローバル・スタンダードによる英語力分析調査>

ケンブリッジ英検ヤングラーナーズ

【日時】平成16年8月4日(水)

【受験した生徒の感想】

- ・リスニングでは、英語がとても速くて聞きづらかった。本当の英語はこんなに速いんだと感動した。いつもは日本人同士の英語だからゆっくりで分かりやすいけれど、外国の人と話すためにも速い英語を聞けるように授業中の練習や復習をしっかりとやりたいと思った。(S 1 年女子)
- ・前回はケンブリッジ英検を受けたので、前より問題をスムーズに解いていくことができた。リスニングも去年よりは聞き取れるようになった。(F 3 年女子)

【考察】

- 今年度の受検者数は、昨年より減少したが、全体の中に占めるムーバーズの割合が増加し、学習段階に合った受験ができた。
- 全体的に前年同様 Speaking の評価がよい。これは、普段の授業から英語による対話形式の発話の機会を多く取り入れていることによると思われる。Listening は、昨年度より評価が向上しており、昨年からは普段の授業ですできるだけナチュラルスピードで英語を話したり、生徒がリピートする回数を増やしたりするなどの工夫をしたためであると考えられる。Writing にはまだ課題が多いので、今後の指導に生かしていきたい。

### <学習環境の充実>

実践1

【日時】平成16年11月5日(金) 第1・2・3・4校時

【場所】大垣市立北中学校 1年1組～4組教室

【指導者】パデマワティ・ナタラジャイン、國枝重喜

【活動内容】対象 1年生英語授業(147名)

○インドの動物や学校について写真を使った紹介を聞いたり、クイズに答えたりしながら、日本との違いや共通点を理解する。

【活動の様子】

- 講師の先生のインド独特の衣装とインドの写真(学校、寺院、動物、通りの様子、衣装など)に、生徒はたいへん驚き、ジェスチャーを交えた写真の説明にじっくり聞き入っていた。
- 教科書 Lesson 6 でアメリカの学校生活を学習したため、インドの学校生活について関心を持ち、日本と比較しながら話を聞くことができた。



### 【生徒の感想】

- ・インドには、15種類以上の言語があり1人で5つも話せるということが印象に残りました。
- ・インドの一部の地域では、川に浮かぶ船の家に住んでいて、日本と違うなと思いました。陰ができないお寺の話やゾウが神様だという話を聞いてとてもびっくりしました。
- ・インドの学校の様子の概要を英語や写真で理解できたので良かったです。小学校が5年間、中学校が5年間、高校が2年間の構成には、少し驚きました。

### 実践2

【日時】平成16年11月16日（火）13:20～15:10

【場所】大垣市立北中学校 被服室

【指導者】アフローザ・スルタナ，高松一恵

【活動内容】対象 2年生選択家庭科 25名

○ Bangladesh の結婚式のビデオを見て、衣装や料理について英語による説明を聞く。

○ Bangladesh の典型的な衣服であるサリーの説明と着付けを通して異文化を体験する。



### 【活動の様子】

○ Bangladesh の紹介の後、結婚式の様子を見ながら、国独特の衣装や料理の紹介、食習慣の説明を英語で聞き、一生懸命理解しようと集中して聞いていた。

○サリーの大きな生地を広げ、少しずつ体に巻き付けながら着付けをしていく様子を見せてもらった。生徒はとても興味をもち、進んでサリーを試着し、着心地を確かめる姿があった。

### 【生徒の感想】

- ・ Bangladesh の国旗は、日本の国旗に似ていたけど、赤い丸は、戦争でなくなった人の血を表していることが分かった。
- ・他の国の伝統衣装を知るだけでなく、着ることもできていい体験になった。1枚の布をあっという間に体に巻き付けていって服にしてしまうスルタナさんはすごいと思った。

### <成果と課題>

○これまでの英語授業を見直し、活動の指示や内容にかかわる説明（教科書の導入など）をできるだけ英語で行うことを続けてきたことで、生徒は英語を聞くことに集中し、英語での質問に瞬時に反応できるようになった。

○ペア学習やゲームなど、多様な学習形態を工夫することで、必然的に話さなければならない状況を作り出すことができ、生徒が英語を発話する量を多くすることができた。

○フレーズリーディングの視点から高校と共通の取り組みを行い、フレーズのまとまりごとに意味を取る練習を積み重ねた。その結果、1語のみの応答ではなく、フレーズを組み立てて話そうとする姿勢が身に付いてきた。

○授業の単元を発展させた内容で外国人講師を活用した。これにより学習内容を深化させるとともに、英語への関心をさらに深めることができた。

▲英文の読み取りの中でフレーズごとに意味をとらえていく方法の指導をさらに進め、よりなめらかな発音と多くの output ができる指導を進めたい。

▲単なるゲームにとどまらず、より自然な発話を引き出す場面設定を多くしていくことが大切である。また、語彙・表現の提示方法をさらに工夫していく必要がある。

▲英文を作る力が弱いという高等学校からの指摘を踏まえ、語順を意識して、英文を正しく書く力を高めていかなければならない。